

AI駆動開発市場の2025年トレンド分析

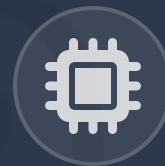
市場動向・技術革新・戦略的インサイト



Agentic AI



マルチモーダル

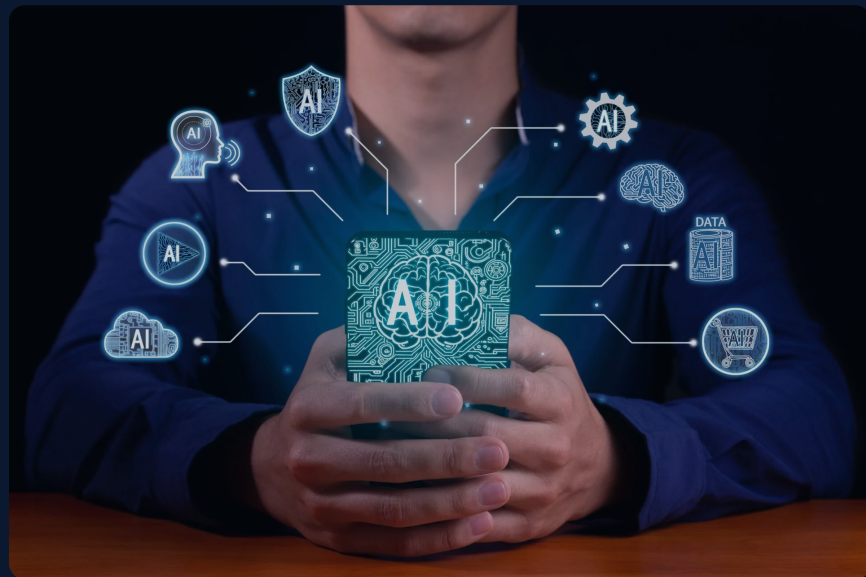


Edge AI

2025年10月

エグゼクティブサマリー

2025年のAI駆動開発市場は急速に変化し、企業戦略や投資判断に大きな影響を与えています。主要トレンドを把握し、戦略的な対応が求められる時代です。



市場規模の急拡大

グローバルAI市場は2025年に約55兆円（3,719億ドル）に達し、2030年には270兆-360兆円規模に拡大すると予測される。年平均成長率は30-45%と他産業を大きく上回る。



3つの注目技術トレンド

Agentic AI（自律型AIエージェント）、マルチモーダルAI（複数データ形式の統合処理）、Edge AI（エッジでの処理）が主要な技術革新として台頭。2025年は「AIエージェント元年」と位置付け。



企業戦略への影響

大企業の92%が今後3年でAI投資を増やす計画。内製化の加速（大企業の9割以上）と価値ベースの価格体系への移行が進行。AI導入の70%が失敗という課題も。



標準化とガバナンスの重要性

リスクベースアプローチに基づく規制・ガイドラインが整備され、AIガバナンスの重要性が増大。責任あるAI開発が企業価値向上の鍵に。

市場規模と成長予測

グローバルAI市場規模（2025年）

55兆円（3,719億ドル）

年平均成長率：30-45%（2025-2030年）

AI駆動開発市場は急速に拡大しており、2025年から2030年にかけて爆発的な成長が予測されています。特に注目すべきは、従来型AIと比較して生成AIやエージェント型AIの成長率が著しく高いことです。



グローバルAI市場

2025年：55兆円

2030年：270-360兆円

年平均成長率：30-45%



生成AI市場

2024年：209億ドル

2025年：322億ドル

成長率：53.7%



AIエージェント市場

2025年：54億ドル

2030年：503億ドル

年平均成長率：45.8%



国内AIシステム市場

2024年：1.3兆円

2029年：4.2兆円

年平均成長率：25.6%

グローバルAI市場の成長予測（2025-2030年）



カテゴリー別 年平均成長率比較



主要技術トレンド①：Agentic AI（エージェンティックAI）

2025年は「AIエージェント元年」と位置づけられています。従来の受動的なAIから、自律的に行動するエージェンティックAIへの進化が急速に進み、ビジネスモデルと開発手法の根本的な変革をもたらしています。



自律的な計画・実行・判断能力

人間の指示を一度受けるだけで、複雑なタスクを自律的に計画・実行・判断できる能力を持ち、結果を最適化します。従来のAIとは異なり、中間ステップを自動化し、目標達成に必要なアクションを自ら決定します。



マルチエージェントシステムの台頭

複数のAIエージェントが協調して動作するシステムが普及。営業エージェンティック、分析エージェンティック、スケジューリングエージェンティックなどが連携し、複雑なワークフローを自動化します。



MCP（Model Context Protocol）の業界標準化

AIとシステムの接続を標準化するプロトコルとして、OpenAI、Microsoft、Googleが採用。エージェンティック間のスムーズな連携と既存システムとの統合を実現します。



コンテキストエンジニアリングの必須化

「AIが最高のパフォーマンスを発揮できる環境を作る技術」として確立。従来のプロンプトエンジニアリングから進化し、AI導入成功の鍵となっています。

市場規模の爆発的成長

54億ドル



503億ドル

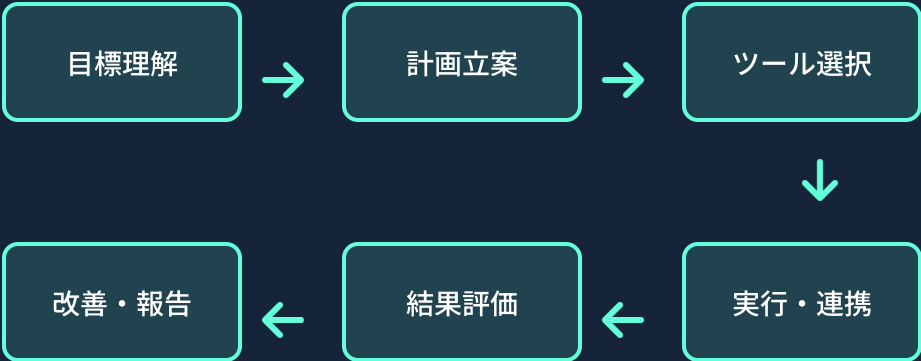
45.8%

2025年

2030年

年平均成長率

Agentic AIのワークフロー



MCP業界標準の主要採用企業



OpenAI



Microsoft



Google

AIエージェンティック市場成長予測（2025-2030年）



主要技術トレンド②：マルチモーダルAI

マルチモーダルAIは、テキスト、画像、音声、動画といった複数の情報形式（モダリティ）を同時に処理・理解・生成できる次世代AI技術です。人間が五感を統合するように、異なるデータ形式を組み合わせることで、より深い理解と豊かな表現が可能になります。

主要モデル比較

👑 GPT-4o (OpenAI)

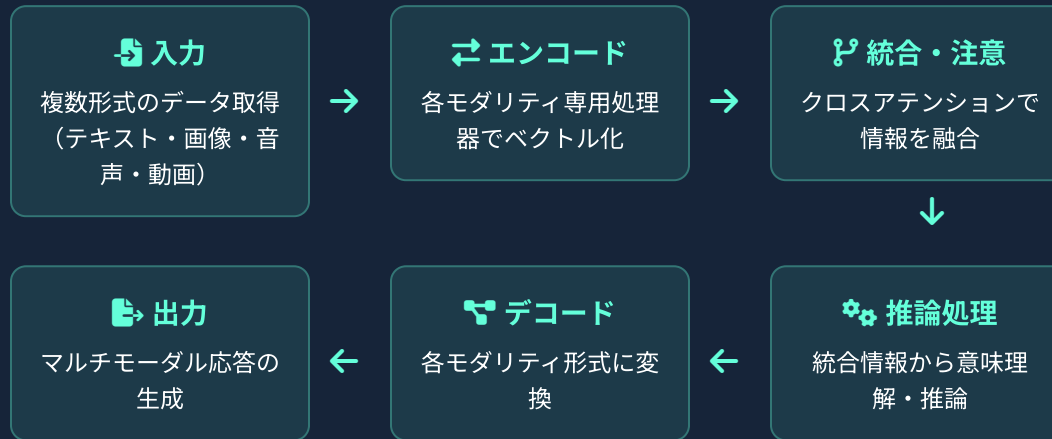
- ∞ Omnimodel：全モダリティに対応
- 🎤 リアルタイム音声対話
- 🖼️ 画像理解・生成の高精度化
- 🔄 複雑なマルチステップタスクの処理

🟢 Gemini 2.5 Pro (Google)

- 📄 100万トークン超の長文処理
- 📁 Google Workspace統合
- 🔍 検索エンジンとの連携
- 📄 コード生成・分析の強化

🏠 Claude 3.5 Sonnet (Anthropic)

- 🗣️ 日本語処理の高精度化
- 🧠 論理的思考と推論能力
- 🛡️ 安全性とプライバシー重視
- 📊 データ分析と可視化の強化



業界別実用事例

🏥 **医療診断の精度向上**
画像診断と患者情報の統合分析で診断精度が30%向上

🚗 **自動運転の安全性強化**
カメラ・センサー・音声の統合処理で危険予測能力向上

🏭 **製造業のスマートファクトリー**
映像・音・振動データから早期異常検知を実現

🎧 **カスタマーサポートの効率化**
顧客問い合わせと添付画像の統合処理で対応時間70%短縮

📈 **2025年の企業導入状況**：実証実験から本格運用への移行期。従来の単一モーダルAI比で処理精度が約40%向上し、業務効率化に大きく貢献。

主要技術トレンド③：Edge AI

2025年 市場規模の歴史的転換点

Edge AI：122億ドル

初めてクラウドAI市場（119億ドル）を上回る

Edge AI（エッジAI）は、クラウドではなくデバイスやローカルサーバー上でAI処理を実行する技術です。低遅延、プライバシー保護、オフライン処理能力が求められるIoTデバイスの普及とともに急速に成長しています。

⚡ リアルタイム処理

クラウドへのデータ転送なしで即時処理が可能。自動運転や産業用ロボットなど遅延が許されない用途に最適。

🛡️ プライバシー保護強化

センシティブなデータをデバイス内で処理することでデータ漏洩リスクを低減。医療・金融分野で需要急増。

📶 ネットワーク負荷軽減

データ転送量の削減によりネットワーク帯域を節約。IoTデバイスのバッテリー寿命も延長。

🔧 IoTデバイスとの連携拡大

2025年までにIoTデバイス数は750億台に到達予測。これらにAI機能を統合するためEdge AIが不可欠。



製造業：リアルタイム予知保全と品質管理



スマートシティ：交通監視と環境センシング



医療機器：リアルタイム患者モニタリング



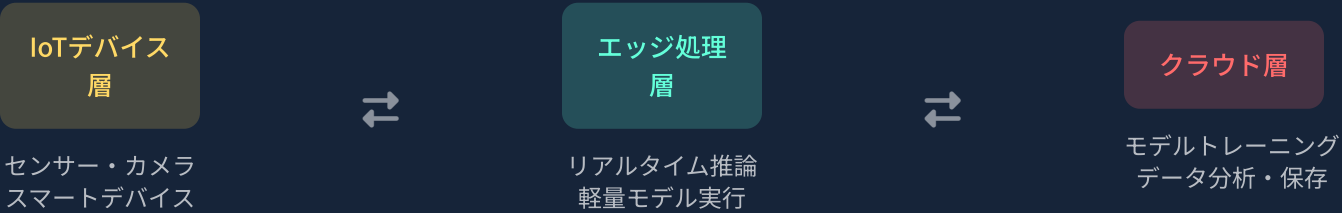
監視システム：オンデバイス顔認識・異常検知

Edge AIとクラウドAI市場規模の比較（2023-2027年）



	Edge AI	クラウドAI
処理遅延	ミリ秒単位 ✓	数百ミリ秒～秒単位
データプライバシー	デバイス内で完結 ✓	クラウドへのデータ送信が必要
ネットワーク依存	オフラインでも動作可能 ✓	常時接続が必要
計算リソース	限定的（最適化が必要）	ほぼ無制限 ✓
スケーラビリティ	デバイスごとに個別対応	容易に拡張可能 ✓
運用コスト	初期投資高・運用コスト低	従量課金・長期運用コスト高

Edge AIアーキテクチャ



企業戦略への影響

2025年、AI技術の急速な進化によって企業戦略が大きく変化しています。特に注目すべきは、AI投資の拡大と内製化の加速、そして新たな収益モデルへのシフトです。

AI投資を増加予定の大企業



92%

今後3年以内でAI投資を拡大する企業の割合

AI内製化を推進する大企業



90%以上

社内にAI開発・運用能力を構築する企業の割合

AI導入プロジェクトの失敗率



70%

主な原因：データ文脈理解不足（40%）

投資判断のポイント

- 技術よりも**ビジネス価値創出**を軸に判断
- 短期的ROIと**長期的競争優位性**のバランス
- 内製・外部調達**のハイブリッドアプローチ**検討
- 従量課金制の**コスト変動リスク**を評価

IT投資における内製化とAIへのシフト



AI導入プロジェクト失敗の主要因 (%)



ドメイン駆動開発（DDD）

ビジネスドメインをAI開発の中心に据え、文脈理解を強化。コンテキストエンジニアリングと組み合わせて精度向上。



コンテキストエンジニアリング

AIに適切な文脈を与えるための新たな必須スキル。データの意味理解を高め、AIの判断精度を向上。



価値ベースの価格体系

工数ベースから価値創出に基づく料金体系へ。顧客にとっての価値に応じた適正な対価を設定。



従量課金制の新収益モデル

API呼び出し、トークン消費量、コンピュータ時間などに基づく柔軟な課金体系がスタンダードに。

標準化と責任あるAI開発

日本のAI事業者ガイドライン

第1.1版（2025年3月公表）

企業・自治体・公的機関向けの包括的なAI開発・提供・利用に関する非拘束的ソフトロー

AI技術の急速な進展と利用拡大に伴い、そのリスクや便益を適切にバランスさせる国際的なガイドラインや規制の整備が進んでいます。日本でも「リスクベースアプローチ」を採用したAI事業者ガイドラインが策定され、「アジャイル・ガバナンス」思想にもとづく継続的な改善が図られています。

国際動向：各国・地域の取り組み

- 広島AIプロセス**：G7広島サミット（2023年）を起点とした国際的なルール検討の枠組み。2023年12月に「包括的政策枠組み」を合意。
- EUのAI Act**：リスクレベルに応じた規制を設けるEU法。2024年成立、2025年本格施行。
- NIST AI RMF**：米国標準技術研究所によるAIリスク管理フレームワーク。自主的な評価・管理手法を提供。
- 米英AIセーフティ研究所**：高度なAIシステムの安全性評価機関。日本でも2024年にAIセーフティ・インスティテュートを設立。

リスクベースアプローチの採用

AIのリスク（危害の大きさとその蓋然性）に応じて対策の程度を決定するアプローチ。過剰な規制によるイノベーション阻害を避けつつ、適切なリスク管理を実現します。

Living Document（生きた文書）：技術の進化に合わせて継続的に更新・改善されるガバナンス手法。マルチステークホルダーの関与が特徴です。

AIガバナンスフレームワーク



基本理念（Why）

社会的使命、ステークホルダーからの期待、目指すべき社会の姿



原則・指針（What）

AI開発・提供・利用において達成すべきゴール



実践・実装（How）

リスクアセスメント、モニタリング、技術的対応



評価・改善（Check & Act）

定期的な検証、フィードバック収集、継続的改善



マルチステークホルダー関与

社会的合意形成、透明性の確保、信頼構築

責任あるAIの4つの主要原則



公平性（Fairness）

差別やバイアスを排除し、多様性を尊重した公正なAI開発・利用



安全性（Safety）

人間や社会に対する危害の防止とセキュリティ確保の取組



透明性（Transparency）

AIの判断過程や使用データの適切な開示と説明可能性の確保



説明責任（Accountability）

AI開発・提供・利用における責任所在の明確化と対応体制

今後の注目ポイントと提言

AIの進化は止まることを知りません。先進企業は「技術」「戦略」「組織」の3つの側面から包括的なアプローチを採用し、AI駆動開発のメリットを最大化しています。これらの視点から見た今後の注目ポイントと実践的な提言を以下にまとめました。

技術面

- マルチエージェント協調システムの進化：複数のエージェントが役割分担して連携するシステムが主流に
- コンテキストエンジニアリングのスキル習得：AIの判断精度を高める専門技術が競争力の源泉に
- エッジとクラウドのハイブリッド活用：最適な処理場所の選択がパフォーマンスとコスト効率を両立

戦略面

- セキュリティとガバナンスへの投資優先：リスクベースアプローチによる適切な保護策の実施
- 価値ベースの価格設定への移行：時間や工数ではなく、ビジネス価値に基づく新しい収益モデル
- ドメイン駆動開発（DDD）導入：ビジネスとAIの融合による開発品質と柔軟性の向上

組織面

- 内製化とパートナー選定の最適化：コア技術は内製、専門領域は戦略的パートナーリングを推進
- AI人材育成とスキル開発：技術・ビジネス・倫理を理解する越境人材の計画的な育成
- 失敗事例からの学習：AI導入プロジェクトの70%が失敗する現状から学び、対策を講じる

AI駆動開発 戦略的ロードマップ 2025-2028

2025-2026

基盤構築フェーズ

- AIガバナンス体制の確立
- コンテキストエンジニアリング導入
- パイロットプロジェクトの実施
- AI人材育成プログラム開始

2026-2027

拡大・統合フェーズ

- マルチエージェントシステム導入
- ハイブリッドAIインフラ構築
- 価値ベースの収益モデル移行
- DDD原則の組織内浸透

2027-2028

最適化・革新フェーズ

- AIエコシステムの確立
- 業界標準への貢献
- 自己最適化AIシステム導入
- AI事業モデルの確立



まとめ

AI駆動開発市場は急速な変化の中にあり、今後数年間でビジネスモデルと競争環境を根本から変革するでしょう。本プレゼンテーションの主要ポイントを再確認し、今後の戦略構築にご活用ください。

2025年は変革の年
- 今こそ行動を -



市場の急拡大

グローバルAI市場は年平均30-45%の成長率で急拡大。2025年の55兆円から2030年には最大360兆円規模へ。従来産業の成長率を大きく上回る発展速度に注目。



3つの主要技術トレンド

Agentic AI（自律型AIエージェント）、マルチモーダルAI（複数データ形式の統合処理）、Edge AI（エッジでの処理）が企業戦略を変革。技術の融合が新たな価値創出の源泉に。



内製化と投資拡大の加速

大企業の92%が今後3年間でAI投資を拡大し、9割以上が内製化を推進。組織変革と人材育成が競争優位性確保の鍵となる中、AIシステムへの投資配分が急速に増加。



標準化とガバナンスが競争力の源泉

リスクベースアプローチに基づく規制・ガイドラインが整備され、AIガバナンスの重要性が増大。責任あるAI開発と透明性確保が企業価値と信頼性の向上に直結。



成功の鍵

コンテキストエンジニアリングの習得、ドメイン駆動開発（DDD）の導入、価値ベースの戦略構築が企業成長の決定要因に。AI導入の70%が失敗する現状を打破するための実践的アプローチの確立が急務。